

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成 19年 12月 12日

### 【評価実施概要】

事業所番号	4070801297		
法人名	有限会社 さつき福寿サービス		
事業所名	グループホーム さつき		
所在地	福岡市東区奈多3-4-16 〒 811-0204 (電話) 092-605-5350		
評価機関名	社会福祉法人 福岡市社会福祉協議会		
所在地	福岡市中央区荒戸3-3-39		
訪問調査日	平成19年12月7日	評定確定日	平成20年1月18日

### 【情報提供票より】(平成 19年 11月 1日事業所記入)

#### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 15年 8月 15日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	8人
職員数	11人 常勤	3人 非常勤	8人 常勤換算 4.6人

#### (2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2階建ての～ 1階部分		

#### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	53,000～48,000 円	その他の経費(月額)	8,000 円	
敷金	有( 円)	無		
保証金の有無(一時金を含む)	有( 100,000 円)	有の場合償還の有無	有 無	
食材料費	朝食	350 円	昼食	550 円
	夕食	450 円	おやつ	150 円
	または1日あたり 円程度			

#### (4) 利用者の概要( 3月 1日現在)

登録人数	7名	男性	1名	女性	6名
要介護1	2名	要介護2	3名		
要介護3	1名	要介護4	1名		
要介護5	名				
要支援1	名				
要支援2	名				
年齢	平均 90,4 歳	最低	81 歳	最高	98 歳

#### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	やまだ医院、雁の巣病院、福岡輝栄会病院
---------	---------------------

### 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

福祉の現場での処遇に疑問を抱いたホーム長が、手の届く・目の届く小さなホームを開設したいという思いを実現させたホームである。交通の便が良く、買い物や散歩にも便利な環境にあり、地域のラジオ体操実施のためにホーム駐車場の提供、地域行事への参加、地域保育園との相互交流など、地域とのふつうの交流が図られている。毎月のホーム便りと、入居者一人ひとりの様子や状態を綴った月次報告を作成し、主としてかかわる家族のみならず入居者の係累の方までも提供している。家庭的で落ち着いた環境の中、入居者のペースに合わせて、「待つ・見守る」介護を実践し、入居者一人ひとりに合わせたケアの提供がなされている。

### 【重点項目への取組状況】

重点項目	<b>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</b> 前回の評価を受けて、介護サービス計画書の見直し時の記録の充実を図るなどの成果が見られる。
	<b>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</b> 今回の受審に向けて、職員会議時に外部評価についての説明を行うなどの取組みがある。
重点項目	<b>運営推進協議会の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</b> 第1回目の運営推進会議が開催されたばかりである。運営推進会議で、ホーム入居者へラジオ体操参加の声かけをしていただくなどの取組みがみられる。今後、運営推進会議の定期的・継続的な開催と会議を通じて、質の向上へ向けての取組みを期待したい。
	<b>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)</b> 家族面会時の声かけ、その都度の電話連絡などにより報告が行われている。また、月に1度のホーム便りと、入居者一人ひとりの一ヶ月の様子を綴った月次報告を通じて、入居者の日常の様子を知らせるとともに家族の要望や希望の表出に努めている。出てきた要望等に対しては、協議を行い、その時々に応じた対応が行われている。
重点項目	<b>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</b> 近隣にある魚屋やスーパーマーケットを利用したの買い物、地域のラジオ体操実施のためにホーム駐車場の提供、地域行事への参加、保育園との相互交流など、地域とのふつうの交流が行われている。

## 2. 調査報告(詳細)

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1 理念の共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続ける ことを支えていくサービスとして、事業 所独自の理念をつくりあげている	開設時から地域とのかかわりは強く、“誓 い”として地域との交流を盛り込んでいる。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の 実践に向けて日々取り組んでいる	入職時に理念の説明が行われている。また、 あたりまえの事として職員会議や朝の申し送り 時に話を行うなど、理念の実践への取組みがあ る。		
2 地域との支え合い					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員と して、自治会、老人会、行事等、地域活 動に参加し、地元の人々と交流するこ とに努めている	近隣にある魚屋やスーパーマーケットを利用 しての買い物、地域のラジオ体操実施のために ホーム駐車場の提供、地域行事への参加、保育 園との相互交流など、地域とのふつうの交流が 行われている。		
3 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及 び外部評価を実施する意義を理解し、評 価を活かして具体的な改善に取り組んで いる	前回の評価を受けて、見直し時の記録の充実 を図るなどの成果が見られる。今回の受審に向 けて、職員会議時に外部評価についての説明を 行うなどの取組みがある。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービス の実際、評価への取り組み状況等につ いて報告や話し合いを行い、そこでの意見 をサービス向上に活かしている	第1回目の運営推進会議が開催されたばかり である。運営推進会議で、ホーム入居者へラジ オ体操参加の声をさせていただくなどの取組 みがみられる。運営推進会議への定期的・継続 的な取組みはこれからである。		運営推進会議の定期的・継続的な開催と会 議を通じて、質の向上にむけての取組みを期 待したい。

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	区役所からの生活保護受給者の受入れ相談がきたり、入居者の相談に出向くなど、市町村担当者との連絡・連携を図る取り組みがある。また、包括支援センターへのこまめな事務連絡が行われている。		
7 追加	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	全職員に対して制度の説明を行っている。主として、ホーム長・管理者・ケアマネジャーが家族に対して説明を行うなどの取り組みがある。		
4 理念を実践するための体制					
8 (7)	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族面会時の声かけ、その都度の電話連絡などにより報告が行われている。また、月に1度のホーム便りと、入居者一人ひとりの一ヶ月の様子を綴った月次報告を通じて、入居者の日常の様子を知らせる工夫がある。		
9 (8)	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族面会時の声かけ、その都度のかかわり、月に1度のホーム便りや入居者個々の月次報告等を通じて、家族の要望や希望の表出に努めている。家族から出てきた要望等に対しては、協議を行い、その時々に応じた対応が行なわれている。		
10 (9)	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	この1年、職員の離職等による交代は無く、馴染みの関係性の継続が保たれている。入居者が心地よいと感じる雰囲気作りへ努めており、新しい職員が入ったときには、馴染みの職員がメインでつくなどの工夫がある。		
5 人材の育成と支援					

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
11	19 追加	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用に関しては、何ら制限は行われていない。職員の個性を尊重し、日常の様々な場面を通して、職員が持っている能力が発揮できるような配慮がある。		
12	20 追加	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	“誓い”の中に、「高齢者・健常者・障がい者が共に楽しく暮らせる社会を提案…」とあり、自然な形で啓発する取組みがある。認知症高齢者に対する人権のみならず、広義の意味での人権尊重と職員間での思いやりに着目したケアの提供が行われている。		
13 (10)	21 (19)	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修案内の情報を提示して、研修参加の希望を募ったり、ホーム長や管理者から指名して研修に参加してもらうなど、研修への参加機会がある。		
14 (11)	22 (20)	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会を通じて、職員レベルでの情報交換や交流の話が持ち上がったが、実践にまでは至っていない。		グループホーム協議会での会合等で働きかけを行っていただき、職員レベルでの他のホームとの見学や相互研修、情報交換等の機会の確保に努め、質の向上にむけての取り組みを期待したい。

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15 (12)	28 (26)	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	1～数泊の体験入居や週末のみのショート利用から始めるなど、本人の状況に合わせて利用日数を増やしていくなど、徐々に馴染んでもらうための工夫がある。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16 (13)	29 (27)	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常のかかわりを通して、長年連れ添った夫婦としてのあるべき姿を教えられたり、相手を思いやる心や人生観を学ぶなど、精神的な部分で常に学びを得ている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1 一人ひとりの把握					
17 (14)	35 (33)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常のかかわりの中での声かけや観察を通して、入居者・家族の思いや意向を把握している。把握した思いや意向は、24時間アセスメントシートや生活状況シート、介護計画書中に記載し、職員間で共有が図られている。		
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18 (15)	38 (36)	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日常のかかわりの中での声かけや観察を通して、入居者・家族の思いや意向の把握に努めている。毎月の職員会議時に職員の意見や気づきを聞き、介護計画へ反映させている。		
19 (16)	39 (37)	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月のモニタリングと6ヶ月の介護計画の再作成が行われている。毎月の職員会議時に、1ヶ月のモニタリングとして、入居者の現状の確認と協議が行われている。		


外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3 多機能性を活かした柔軟な支援					
20 (17)	41 (39)	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々 の要望に応じて、事業所の多 機能性を活かした柔軟な支援 をしている	入院した際に面会を兼ねた状 況把握や情報収集、家族対応 が無理な場合の通院対応など、 その時々で柔軟な対応が行わ れている。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21 (18)	45 (43)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切 にし、納得が得られたかかり つけ医と事業所の関係を築き ながら、適切な医療を受けら れるように支援している	今までのかかりつけ医への受 診は、基本的に家族での対応 であるが、家族が対応できな い場合は職員で対応するなど の支援がある。		
22 (19)	49 (47)	重度化や終末期に向けた方針 の共有 重度化した場合や終末期のあ り方について、できるだけ早 い段階から本人や家族等なら びにかかりつけ医等と繰り返 し話し合い、全員で方針を共 有している	主としてかかわっている家 族の意向のみでなく、その他 の家族の意向までを聞き、そ の都度の説明と協議が行われ ている。終末期に対する要 望を把握し、介護計画書中に 記載し、職員間での共有が図 られている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1 その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23 (20)	52 (50)	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損 ねるような言葉かけや対応、記録等の個 人情報の取り扱いをしていない	入居者の視線に合わせての会話や耳元での声 かけ、馴染みのある称呼の使用、トイレを別の 表現に置き換えての誘導など、入居者を尊重し た対応が見られた。記録等は、所定の位置で適 切に管理されていた。		
24 (21)	54 (52)	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するの ではなく、一人ひとりのペースを大切に し、その日をどのように過ごしたいか、 希望にそって支援している	日中の過ごし方、食事のペース、入浴にかか る時間など、入居者一人ひとりの状況に配慮し ながら、入居者の気持ちを尊重した対応が見受 けられた。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25 (22)	56 (54)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人 ひとりの好みや力を活かしながら、利用 者と職員と一緒に準備や食事、片付けを している	調理の音や匂い、食事が出来上がる過程の雰 囲気などを肌で感じ取ることが出来、それら を通じて食事が楽しみとなるような工夫がある。 食事の準備、食器洗いや拭き、テーブル拭きな ど、入居者の出来る事への取組みがある。		
26 (23)	59 (57)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてし まわずに、一人ひとりの希望やタイミン グに合わせて、入浴を楽しめるように支 援している	その時々外出などの状況により、入浴時間 を変更するなど、柔軟な対応が行われている。 一番風呂や朝風呂希望の入居者を優先させるな どの対応がある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27 (24)	61 (59)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせる ように、一人ひとりの生活歴や力を活か した役割、楽しみごと、気晴らしの支援 をしている	針仕事、縫い物、洗濯物たたみ、食材の下ご しらえ、配膳、食器洗い、買出しなど、入居者 一人ひとりの趣味や特技等を把握し、介護計画 中に取り入れての支援が行われている。		
28 (25)	63 (61)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひ とりのその日の希望にそって、戸外に出 かけられるよう支援している	気候よっての散歩や外出、行事だてでの外 出や外食、地域行事への参加、地域保育園と連 携しての見学など、外出する機会を見つけての 支援がある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29 (26)	68 (66)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中 玄関に鍵をかけることの弊害を理解して おり、鍵をかけないケアに取り組んでい る	日中は常に開錠されている。職員は入居者の 様子を良く観察しており、さりげない声かけや 一緒に出かけるなどの対応がある。		
30 (27)	73 (71)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜 を問わず利用者が避難できる方法を身に つけ、日ごろより地域の人々の協力を得 られるよう働きかけている	年に1度、避難訓練が実施されている。地域 の消防団の副団長の方に声かけを行っており、 何かあれば協力が得られる体制である。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31 (28)	79 (77)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日 を通じて確保できるよう、一人ひとりの 状態や力、習慣に応じた支援をしてい る	栄養士の方が立てた献立にそって食事が作ら れている。入居者の状況に応じた食事形態であ り、食事摂取のチェックを行っている。水分摂 取への頻繁な声かけにより補水に配慮するなど の、取組みがある。		



外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32 (29)	83 (81)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台 所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者 にとって不快な音や光がないように配慮 し、生活感や季節感を採り入れて、居心 地よく過ごせるような工夫をしている	リビングはやわらかな明るさにつつまれてお り、玄関先に活けられた季節の生花や窓から見 える景色に季節の移ろいを感じることができ る。キッチンからは、調理の音や匂いを感じ取 ることができ、生活感を味わうことができる。		
33 (30)	85 (83)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や 家族と相談しながら、使い慣れたものや 好みのものを活かして、本人が居心地よ く過ごせるような工夫をしている	居室には、趣味の品、筆筒、鏡台、仏壇など の馴染みの物や使い慣れたものが持ち込まれて おり、夫婦で入居している方には、片方の居室 に家具をもう片方の居室でゆっくり過ごしてい ただくなど、居心地良く過ごすための工夫があ る。		

 は、重点項目。  
(数字)は、国の標準例による番号